

音楽には生きる力が溢れている この文化を後世に伝えるために

尾崎豊の歌に感動し、志ん生落語が大好き。名ドラマ「北の国から」はほとんどのセリフを憶えているだけでなく、誰も知らないような口ケ地にまでみずから足を運ぶほど!

そんな南先生が、音楽、教育、文化、さらには現代社会等についても、その幅広い考え方を披露してくださいました。



ようやく人間と音楽の関係について、いろいろなことが見えてきたとおっしゃる南先生。
「1年で(中学校を)辞めた意味はありましたね」

金城学院大学 人間科学部 現代子ども学科

南 曜子 教授

- 広島大学大学院博士課程前期教育学研究科
教科教育学専攻音楽修了
- 専門分野/教育学 音楽教育学
- 研究課題/幼児期の自発的歌唱行動に関する研究、乳幼児の音楽認知の発達に関する研究、音楽療法的見地からみた音楽的発達について
- 著書/心を育む子どもの歌(共著・2005.12)
子どもの文化を学ぶ人のために(共著・2001.11)

もっと音楽を知りたい

小さいころからピアノを習い音楽に接してきましたが、それが高じてもっと音楽を勉強したいと思った結果が、現在の自分です。

実は大学卒業後、1年間は東京の江戸川区で中学校の教師をやっていたのですが、何かが違う、これは自

分のやりたいことではない、と思うようになりました。そして、もっと音楽を知りたいと考え大学院に進むことにしました。人間にとって音楽とは何か、という根本的なことをもっと知ったうえで人を教える立場に立ちたいと思ったのです。

それからは、研究のためにいろいろな国を訪れましたが、国や民族によって音楽の伝わり方が違うのはと

ても興味深かったですね。

とくにロシアやハンガリーのような旧共産圏の国は、とても面白い。何より、人々の音楽の楽しみ方というものが日本とは全然違います。クラシックもポップスも関係なく、誰もが音楽を、いつでも、まんべんなく楽しむスタイルが染み付いているのです。まさに、音楽を浴びる!という感じですね。



子どもを育てる歌

私の研究の根本的なテーマは、音楽を文化としてどのように後世に伝えていくか、ということです。その一環として、子どもたちにどんな音楽教育を施していけば良いかを研究しています。

私がとても興味を持ったのは、赤ちゃんが喋りだすころになると、自分で勝手に作詞作曲をして歌い出すことです。この行動には、子どもの持つエネルギー、生きる力を感じるのですが、4歳半になるとぴたりとなくなります。しかしそれは心の発達に伴う自然なものであり、けっしてネガティブな事象などではありません。このように、人間形成の進行していく様は音楽によっても知ることができるのです。

生きる力に溢れた歌、それは、子どもたちが気持ちをぐっと一気に高められるような部分を持っている歌

です。例えば「犬のおまわりさん」を歌うとき、子どもたちは最初から「ワンワン、ワ、ワン…」のフレーズを待望しています。こういうのを、私は子どもを育てる良い歌だと思っています。

しかし最近では、郷愁を誘うような、耳障りのいい歌が多いですね。これは、子どもというより、むしろ大人が好きな歌なのではないでしょうか。卒園式や卒業式で、過去を振り返らせて子どもを“泣かせる歌”も、前進しようとする子どもの本質に逆行している気がします。

音を下げちゃダメ!

さて、金城学院の学生についてですが、歌や絵本など子ども文化に対する関心が高いですね。教育実習などでは、それを通して子どもとうまくコミュニケーションを取っているようです。

ただし、学生たちには、文化は多様であることも知ってほしいですね。メディアで流れているものが、すべてではないのです。

いまは子どもを取り巻く文化がどんどん殺那的、一面的になっているような気がします。絵本の挿絵を例に挙げるなら、昔の岩崎ちひろの絵などは、とても子どもらしいし、想像力をかき立てるものだったのに対

し、いまのアニメは平面的なものが多いですね。それに、毒気もない(笑)。いまでは口あたりのいいものが好まれ、童話や昔話にちょっとでも残酷な場面があると、教師たちは子どもに見せるのを嫌がります。また歌であれば高い音の旋律は敬遠されがちです。私は、困難なものも受け入れ、その意味を深く考えたうえで子どもを教育できる人材こそ、必要なのではないかと思います。

それから、現在は女性が働くことが奨励され、その環境整備がますます進んでいますが、一方で家庭に入って子どもを育てたいと思っている学生もいます。そういう学生たちにもここで学んで良かったと思える大学でありたいですね。

そして音楽教育も、各家庭でしっかりやってほしい。私の授業同様、音(音程)は下げちゃダメ!原曲のまま。高い声を出すための強い意志や力強さを、生きる力として大事にしてほしいと思います。



陽と陰ともに描かれている昔の絵本。音楽だけでなく、これも最高の教育の道具だ

南先生はこんな人



先生から習ったのは、何でも楽しんでやることの大切さ、みんなでひとつのものを作り上げていくことのすばらしさです。

先生の印象は、可愛い! それから私たちと同じ目線に立ってくれる、お母さんのような人。みんなで遊んだり、飲み会をしたりと、本当に楽しかったです。カラオケにも一緒に行ったけど、本当に上手で、みんなに聞かせてあげたいぐらい!

いつまでも可愛くて、魅力的な“高音”でいてください。そして、これからも私たちにいい“伴奏”で引っ張ってほしいな。

元気いっぱいのゼミ生の皆さんたちと